



学びを育む図書館ネットワーク

学校、家庭、地域が連携して

「本と生きるまち」をめざす

公民館

- 公民館の図書室の利用促進や図書の貸出を行う
- 公民館と町立図書館をネットワークでつなぎ、図書を管理する

公民館



地域



家庭

- 子育て支援の中で、保護者が読書活動に興味を持てるようなきっかけをつくる
- 家庭での読み聞かせをすすめる

家庭



本と生きるまち

町立図書館



小・中学校

- 学校の図書担当教員と学校司書が共同して、学校図書館の充実を図る
- 魅力的な学校図書館づくりを行う
- 児童生徒が主体となる図書委員会の活動を実施する



小・中学校



こども園

こども園

- 保育教諭やボランティアによる読み聞かせを実施する
- 家庭での読み聞かせを推進する



この虫なあに？

♪ ここは たのしくて わくわくして 何かが おこりそうな場所
ここは かなしみを ふきとばして 新しいことを はじめられる場所
ようこそ あなたの図書館へ ここは あなたの居場所です ♪

まんのう町民読書の日テーマソング「本と生きよう」より

国では「子どもの読書活動の推進に関する法律」（平成13年）をもとに「子どもの読書活動に関する基本的な計画」を立てています。その中で、子どもの多様な読書機会の確保、デジタル社会に対応した読書環境の整備などを方針として挙げています。

また、図書館を中心としたネットワークについて以下のように示されています。

公共図書館を中心とした地域公共ネットワークとは、単なるコンピューターネットワークやインターネットを意味しているのではなく、資料のネットワーク、人・組織のネットワーク、或いは物流ネットワークといった、情報を必要とする利用者に対して適切な情報を提供するために作り上げられるさまざまな資源（人、資料、道具、及び場所）を有機的に結び付けたものである。

引用：地域の情報ハブとしての図書館 ―課題解決型の図書館を目指して―
（平成17年1月28日 図書館をハブとしたネットワークの在り方に関する研究会）

まんのう町では、左の図のように、町立図書館を核として町全体で子どもや学びたいという人を支える環境づくりに力を入れ、「生涯学習のまち 本と生きるまち まんのう町」を次世代へ継承するために、家庭、小・中学校、こども園、地域、公民館と町立図書館が連携し、町民の読書環境の充実に取り組んでいます。

次のページでは、「本と生きるまち」を目指した取り組みの一部を紹介します。

公民館

四条公民館図書コーナー



図書を借りています



小・中学校

どの本がいいかな？
団体貸し出しで借りてきた本から
選んでいます (高篠小)



図書委員による読み聞かせ (長炭小)



読書集会 (琴南小)



図書館スタッフと
学校司書が協力し、読み聞かせ
や歌で楽しい時
間を過ごします

中学生職場体験学習



図書館見学 (満濃南小)



クリスマスおはなし会



おはなし会



小学生にお勧めの本を紹介 (子ども読書週間)



町立図書館



本と生きるまちに！

<主な取り組み>

○町立図書館

- ・公民館の蔵書のデータ化による一元管理
- ・図書の団体貸し出し (学校、放課後児童クラブなど)
- ・出張図書館 (子育て支援室、琴南農改センターなど)
- ・電子図書の貸し出し
- ・おはなし会 (大人対象、あかちゃん対象など)
- ・企画展示
- ・各種講座 (郷土史、農業、福祉など)
- ・司書体験 (小・中学生)
- ・見学、職場体験受け入れ

○小・中学校

- ・蔵書のデータ化による管理
- ・読書目標の設定
- ・読み聞かせ (図書委員、教員、学校司書、ボランティアなどによる)
- ・ブックトーク、ビブリオバトル
- ・読書集会
- ・町立図書館見学

○こども園

- ・日常的に絵本にふれられる工夫
- ・読み聞かせ (保育者、学校司書、ボランティアなどによる)
- ・親子絵本貸し出し
- ・親子読み聞かせ
- ・町立図書館見学

○公民館

- ・図書の貸し出し

町内音声告知放送を使用した朗読の放送



電子図書館体験会
(吉野公民館)



電子図書館の
利用方法を紹介



出張図書館
(子育て支援室ひまわり)



地域・家庭

「まんのう町民読書の日」
6月第1土曜日は「まんのう町民読書の日」です。町民みんなが読書に親しみ、読書のすばらしさについて理解を深めてほしいという願いから定められました。

こども園

学校司書や図書館スタッフによる
絵本の読み聞かせ (高篠)



保育者による絵本の
読み聞かせ (満濃南)



「絵本のもり」にて (長炭)



郷土史講座
(満濃池と空海)



企画展示
「どこ行く？さあ出かけよう！」



夏休み子ども司書体験
(小学生)



四条小学校では、「感じ、考え、行動する」を合言葉に、よりよい学校づくりをめざして、子どもたちがなにかま助け合う自主的・自律的な活動を推進しています。

満たされてこそ自立 ―三つの宝物―

入学式でこんな話をしました。
本校には、金銀財宝より価値のある宝物が三つあります。
一つ目は、あなた自身です。
学校は子どもを幸せにするところです。お家の方と一緒に心のエネルギーを満タンにしてあげたいと思います。だから、あなたも、自分を大事にしてほしい、色々なことにチャレンジし、できることを増やし宝物を磨いてほしいと思います。
二つ目は、友だちです。
あなたには、あなたのことを大事に思っているお家の方がいるでしょう？隣にいる友だちも同じです。傷つけてはいけません。友だちは悲しみを半分に喜びを二倍にしてくれます。トラブルも含め、経験は成長の糧となります。
三つ目は、学校です。
学校があるからこんな立派な入学式ができます。これまでたくさんの人が入学し、学び、卒業しました。この人たちにとってこの学校は思い出の宝庫です。みなさんは、学校を発射台に夢に向かって羽ばたきます。
この三つの宝物を大事にしてほしいと思います。

為すことと学ぶ ―四条っ子リーダープロジェクト―

本校では、為すことを通して学ぶ「行動的教育」を大切にしています。よりよい未来をめざして各学年が「○○リーダー」となり、自分を見つめ直したり、全校生に働きかけたりしていく「四条っ子リーダープロジェクト」を行っています。



空き缶を持ってダッシュ
アルミ缶集め(5年生)

今年のリーダーは以下の通りです。

1年生	なつこりリーダー
2年生	なかよしリーダー
3年生	キレッキレリーダー
4年生	イベント笑顔リーダー
5年生	エコエッホリーダー
6年生	まんのう町元氣もりーもリーダー



クイズ大会を開く(4年生)



自らの心を磨く掃除

感じ、考え、行動する 四条っ子たち

1年生が宝物だと思う人は立って拍手を！
入学式でスタンディングオベーション

体験の言語化
もくもく清掃トライアル
体験は、言葉にしてはじめて活用可能な経験となります。行動した後は必ず自分を振り返り、どうだったかを評価し言葉にする「体験の言語化」を大切にしています。
例えば、1学期末、教室や廊下、校舎への感謝の気持ちを込めて、黙って掃除に集中する「もくもく清掃10日間トライアル」にチャレンジしました。全校集会で、掃除は何のためにするのか、わかっているのか、黙って頑張ることを目標にしました。
初めは、ついおしゃべりをしてしまつ場合もあったのですが、だんだんと黙って集中して教室や廊下を磨く人が増え始めました。学校全体がしーんとした静寂に包まれ、ほつきやぞうきの音しか聞こえなくなりました。
終業式では、グラフを見て振り返りました。何度も黙って頑張る人数が減ってしまい、くじけそうになったけれど、その度に持ち直したところがすごい。と、価値付けしました。

トライアルを終えた子どもたちの感想を紹介します。

- もくもく清掃を始めてものすごく集中できました。静かになった瞬間、ものすごくやりがいがありました。
- いつもより集中してきれいにすることができました。びかびかになると嬉しかったです。
- 暑さに負けそうになったけど、自分やみんなのために頑張ろうと自分を励まし、暑さに勝てました。

凡事徹底 誰でもできることを誰にもできないくらいに頑張る

1学期は、6年生が進んで1年生に読み聞かせボランティアをしたり、遠足や体育祭でリーダーシップを発揮したりと大活躍でした。また、1年生は、毎日朝顔の世話を頑張りました。2年生は、毎日欠かさず靴箱の靴のかかとをそろえることを続けました。さらに、3年生は、新しく始まった社会科の学習で、いちご農家の秘密をたくさん見つけました。成長を実感する嬉しい1学期でした。



体育祭の演技(6年生)



靴をそろえる2年生



3年生の社会科学習

「行動的教育」と「体験の言語化」を通して、校内アンケートで「自分には良さがある」と回答した子どもが、昨年度同期よりおよそ3ポイント増えました。着実に、自尊感情や自己有用感の育ちを感じています。

小川… 子どもの「やりたさ」

「やってみたい」を生む場所

高篠こども園の築山のふもとから流れる小川は、子どもたちも職員も大好きな場所の一つです。代々子どもたちは、この小川で四季を通して高篠こども園ならではの遊びを、わくわくしながら繰り広げてきました。
先生たちは、「わくわく胸を躍らせる経験を大切に」の願いから、子どもが感じている面白さに共感し、自分自身もわくわくしながら、同じ時間を過ごす仲間として関わります。「瞬間を共に楽しむ、喜び合い、高篠こども園がわくわくしている空間となるように努めています。子どもたちは、のびのびとした環境の中、大好きな先生や友だちと安心して自分らしさを発揮し、さらなる遊びに挑戦しています。

みんなでつくる園行事…誕生会

一人一人にとって忘れられない記念日に

毎月末頃、その月の誕生会を開催しています。子どもだけでなくその月生まれの先生も一緒に祝いし、全園児で成長を喜び合っています。
誕生会は、登園すると、一人一人好きな衣装にヘッドドレスや帽子を選んで身に付け、みんなの拍手で迎えられます。子どもたちには、照れくさいながらもうれしい時間です。そして、おうちの人や先生からのメッセージも伝えられます。周りの人に祝ってもらつことで自分が大切にされていることを実感します。友だちと祝いあつて嬉しさを分かち合い、友だちを思いやりたり、感謝したりする機会にもなっています。
また、友だちからの質問コーナーでは、順番を守ったり、相手の話を聞いたりするなど、集団行動のルールやマナーも学んでいます。
※ヘッドドレス…頭部につける装飾品



一緒に誕生日の歌を歌おう…♪



どんぶらこ どんぶらこ



冷たい氷! 気持ちいいよ!



クワガタが当たったよ!



いらっしゃいませ!
どれがいいですか?

つながる「わくわく」 笑顔がいつだって 納涼まつり

家庭・地域・関係機関との協働

毎年7月上旬、園庭で開催される「納涼まつり」。歌を歌ったり、盆踊りをしたり、親子でゲームをしたりして楽しみます。保護者や先生たちの出店に加えて、学校運営委員、地域の方もゲームコーナーをしてくださいました。
5歳児は、ドーナツの空き箱から始まったこの遊びが発展し「パン屋さん」に挑戦しました。本物の小麦粉をこねて焼いたパンは、クオリティが高く大人気でした。卒園した小学生の兄弟、祖父母も列に並んで、すぐ売り切れました。また折り紙で作ったアクリルも大人気でした。地域と共にあるこども園の納涼まつりに、子どもたちの遊びから発展したお店も披露することができました。まつりを通して地域の方と子どもたちが顔なじみになり、子どもがわくわくを、温かく見守っていただくことがつながっています。
みんなでわくわくを共に感じあつた場、笑顔がいつになる行事を今後も大切にしていきたいと思っています。

今年度から、保育アプリ「コドモン」※が導入され、保護者と園とのつながりが深められるようになっていきます。保護者が子どもの遊びや学び、成長を日常的に感じ取れる機会にできればと思っています。今後、運用には十分配慮しながら、有効に活用していきます。
※保育アプリ「コドモン」…こども園と保護者間の連絡(連絡事項の確認、欠席や遅刻の連絡、遊びの様子(連絡網など)をスムーズにするためのアプリ。



第37回 新任園長として

今年4月、町内6園のこども園の内2園に、新しく園長に昇任した先生がいます。お二人の新任園長の「声」を聞きました。

支えられ支える暮らし

園長として着任し、不安を募らせていた私でした。担任として、副園長として過ごした日々があるからこそ、琴南こども園の足跡を受け継いでいくことへの重責に、身が引き締まる思いだったのです。そんな時、保護者や地域の方からの「先生、これからお願いします！」の言葉と笑顔が心に沁み、力が取れたことを覚えています。

5月、『自分たちでつくる』小学校・こども園合同運動会をしました。「先生、こんなするんやで」と、教えてくれる卒園児たちの輝く笑顔と頼もしい姿に、胸が熱くなりました。と同時に、成長した卒園児の様子に小学校の先生方の温かい関わりを感じました。

ある日先生、先生のお部屋でひとりでさみしい？」と、5歳児に尋ねられました。「さみしい」と答える私を心配そうに見て、しばらく何かを考えているようでしたが、ひらめいたように「白組さん（5歳児クラス）と一緒に遊んだら、さみしくないんちゃうん？」とつぶやきました。瞬間、目を合わせ「そっやな〜」とうなずき合います。職員室にいます。優しい子どもたちの様子に心が和みました。

職員室にいます。職員同士のいろいろなやり取りが聞こえてきます。保育教諭、調理員、用務員、私も含め、立場や関わり方は違いますが、園内で子どもたちに関わる大人たちが、子どもを中心に置いて園生活や保育について語り、あれやこれやと笑ったり悩んだりしています。そのようなやり取りの中で日々の保育が充実していきます。

1学期を終え、こども園に関わっている全ての人により、こども園の暮らしがあるということを実感しています。まだまだ周りの人に心配されることもある新米園長の私ですが、園長として、みんなを支えるために自分にできる精一杯のことをしようと心に決めています。

みなで暮らす琴南こども園の今、その歩みが足跡となっていくと信じています。



琴南こども園 園長 大藪 泰子

4月、園長としての1年が始まりました。入園式では、進級した在園児が新しい友だちを迎えるお祝いの歌や言葉を贈る場面、年長児が主体となって嬉しそうに進める姿を見ることができました。新入園児も園のお兄さん、お姉さんたちとこれから過ごす園生活に、わくわくした気持ちをもってこれたようです。

体育祭では突然の雨に戸惑うことなく、自分たちの演奏や演技を最後までやりきった鼓隊の姿に感動しました。ダンスは、体育館での発表となりましたが、初めてのことがいっぱいある状況に対応していく子どもたちの姿に、たくましさを感じました。

お楽しみ会では、保護者が中心となり、夜店コーナーやゲーム大会を考え、進行してくれました。年長児が盆踊りの選曲をしたり、踊りを全園児に広めたりしました。当日は進行も良い、自分たちで進める楽しさを体験しました。公民館長も協力してくださり、夏の夕方のひとときを家族みんなで楽しむことができました。

行事を計画する時、子どもの育ちにとっての意義や意味について考えます。日々の遊びから行事につなげていくよう心がけ、また行事の経験を遊びに生かしていくことを意識し、職員と話し合います。これからも様々な行事を通して、子どもたちと楽しみながら成長していきたいと思っています。

保護者や地域の方が関わる場では、人とのつながりの大切さや温かさを感じています。様々な角度からいただいている意見はとてもありがたく、地域の中で子どもを育てていくことにもつながっていると感じています。

立場が変わり、話し方や言葉の選び方を考え、悩むことが多くなっています。不安や迷いもあり緊張しますが、多くの方に支えていただきたながら日々を過ごしています。これまで先輩の先生方から教えていただいたことを思い出しながら、私らしい言葉で思いを伝えていくことで、周囲の方々との関係づくりに取り組んでいきたいと思っています。

そして、今日を大切に一步一步進んでいきたいです。



四条こども園 園長 高橋 有紀

先生方もがんばっています

これまでに実施した研修会の様子

教職員の資質向上を図るため、教育研究所主催の研修会を開催しています。年間計画に従い、様々な立場の教職員を対象に実施しています。8月上旬までに行われた研修会の一部を紹介します。

町内新任教職員人権・同和教育研修会 (6.5)



今年度町内のこども園、小・中学校に赴任した教職員を対象に開催しました。本町企画政策課人権推進室長から、町の人権・同和教育に関する取り組みについて話を聞きました。参加した教職員は、改めて人権・同和教育の大切さや日頃から自身の人権感覚を磨くことの必要性を学びました。



人権とは、誰もが生まれながらにもっている、人間が人間らしく生きていくための誰からも侵されることのない基本的な権利です。しかし、現在も様々な人権問題が存在します。人権問題は、時代とともに変遷しているため、日頃から人権に関する意識を高めておく必要があります。



幼小連携・接続研修会 (5.13)

5歳児担任と1年生担任が、入学して間もない子どもたちの様子を校区ごとに情報交換しました。それをもとに、今年度育てたい子どもの姿について共有し、年間を通して取り組むことなどの計画を立てました。



四条校区 (7.24)



琴南校区 (8.7)

夏休み中には、校区ごとに1学期に実施した活動の成果と課題について話し合いました。そして、こども園と小学校の連携・接続がより図れるように、2・3学期の計画を見直しました。

また、園長・校長研修会でも、幼小連携・接続の理論について研修し、共通理解を図っていきます。

デジタル化推進部会研修会 (6.19・8.5)



県教育情報化推進室指導主事の講話 (6.19)

一人1台のタブレットが導入されて4年目になります。子どもが学びの中で、ICTを文房具の一つとして、主体的・日常的に活用できるようになることをめざして、各校のICT担当教員が研修を行っています。県教育委員会教育情報化推進室や県教育センターの指導主事を指導者に、タブレットの効果的な活用方法について研修をしました。



県教育センター指導主事の講話 (8.5)

特別支援教育連携協議会 (6.20)



各小・中学校の特別支援教育コーディネーターと通級による指導の担当者が出席しました。まず、コーディネーターとしての役割や通級による指導の進め方について共通理解しました。その後、たむ（早期支援教育センター）の所長より、設立の基本的な考え方やこれまでの取り組みなどについて説明を聞きました。コーディネーターの先生方は、小・中学校、たむとの連携の仕方や子どもたちの就学指導の進め方について質疑応答を行い理解を深めました。



発達障害のために困り感をもっている子どもは、他の子と同じように学習や活動ができる場面もありますが、特定の学習や活動だけに大きくつまずき、本人自身の努力だけでは解決できないものがあることに、事例を通して気づくことができました。

また、このような子どもは、気づかれにくいつまずきや困難のために、本人の困り感が周囲に理解されず、「がんばれがんばれ」と励まされたり、「努力が足りない」と叱責され、自信

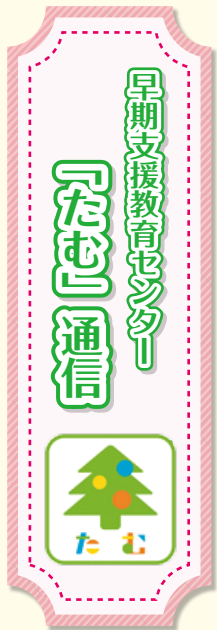
私が、香川大学教育学部附属養護学校（現：特別支援学校）に勤務していた時のことです。附属坂出小学校の5年生の算数の授業を参観しました。一人の女の子が授業中ずっとつむいたまま過ごしていました。担任の先生によると、その子は算数以外の授業では、積極的に学習に参加することでした。このことから、この子にとって算数の授業は非常に苦しいものであることが伝わってきました。

国から、平成13年1月「21世紀の特殊教育の在り方」、15年3月「今後の特別支援教育の在り方」の最終報告が出されました。ここでは、特殊教育から特別支援教育へと大きく制度変更がなされました。発達に困り感をもつ子にとって最適な教育システムとはどのようなものか、「特別支援教室」とはどのような役割があるのかなどを、実践を通して探っていくことが最も求められているのではないかと考えるようになりました。

※PDCAサイクル：Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）の4つの段階を繰り返すことで、業務やプロジェクトを継続的に改善していく手法のこと。

以前の研究の中で

その6 事例に始まり、事例に終わる



※「たむ」では、子どもの様々な成長発達上のつまずきや困難にかかわる相談支援を行っています。その中で気づいたことや伝えたいことを「『たむ』通信」でお届けしています。

の相談者を予想していましたが、幼児から中学生まで36名の申し込みがあり、ニーズの高さを感じました。

「すばる」の取り組み

「すばる」では、個別指導の場を設定し、その子の成長発達経過を探ったり、心理検査を実施したりして、できるだけたくさんの方の情報を集めました。そして、そこから困難の原因を推測し、指導仮説を立てて、実践・検証し、次の事例に生かすということを繰り返しました。その結果、得意を生かして、苦手なカバールする指導のコツを学び、PDCAサイクルの重要性を認識しました。何より大事なことは、子ども自身が主体的に取り組もうとする姿勢を大切にしていこうと痛感しました。

この経験は、現在の私の仕事にもつながっています。発達障害の特性が明確になる前の早期に気づき支援することで、二重の苦しみを軽減し改善につながることを実感しながら、日々の相談活動を行っています。

事例に始まり、事例に終わる、事例に学び、事例に終わる」ことの大切さをかみしめている今日この頃です。



やり抜いた！暑い夏！ 満濃中学校

■ 郡市総体（団体）

部 活 名	結 果
剣 道	男子 優勝 女子 優勝
軟 式 野 球	準優勝
バレーボール	男子 優勝 女子 優勝
卓 球	男子 3 位 女子 優勝
ソフトテニス	女子 3 位
バスケットボール	男子 準優勝 女子 3 位
ソフトボール	準優勝

※ 郡市大会の結果は、紙面の都合で、3位までを掲載しました。



■ 郡市総体（個人）

部 活 名	結 果
剣 道	男子 優勝 松岡 勇志 準優勝 藤井 翔平 3 位 小川 翔生 中野 湊
卓 球	男子 シングルス 優勝 北川 心桜 準優勝 松葉 南緒 女子 シングルス 優勝 川原 幸輝 準優勝 京兼 聡志
ソフトテニス	男子 シングルス 優勝 安藤 美優 準優勝 貞廣みゆう 女子 シングルス 3 位 東山 栞奈 坂本 星姫
柔 道	男子 66kg級 優勝 岡崎 莉愛 心音
水 泳	男子 50m自由形 優勝 長尾 琉生 100m自由形 優勝 末内 克尚 100m 背泳 優勝 三井 拓末 100m バタフライ 優勝 大藪 暁己 400m リレー 優勝 植條・大藪 泉田・長尾 400m メドレーリレー 優勝 三井・田中 末内・吉田 女子 50m自由形 優勝 中西 晶子 100m自由形 優勝 三野 七瀬
陸 上	男子 共通走幅跳 優勝 高井 煌叶

■ 県総体（団体）

部 活 名	結 果
剣 道	男子 優勝

祝 剣道男子 2年連続全国大会出場！

剣道個人 四国大会出場！
男子 松岡勇志 藤井翔平
女子 松葉南緒

■ 香川県なぎなた選手権大会（個人）

種 目	結 果
演技	中野 莉乃・他校生 優勝 増田芽依・井上亜依香 準優勝 篠原 桜・増田 栞奈 3 位
試合	中野 莉乃 準優勝 増田 芽依 3 位

■ 全日本吹奏楽コンクール（香川県大会）

部活名	結 果
吹 奏 楽	A部門 銀賞



防げ!! 水難事故

7月2日 於：仲南小



県教育委員会の実施する「学校における水難事故防止対策強化事業」の水難事故防止教室が実施されました。仲南小学校と町内小学校の教員が参加しました。講師の高松海上保安部職員から水の怖さや救助の際の留意点、ライフジャケットの正しい着用方法などを学びました。参加した教員は、水泳学習などの際に、学んだことを生かしたいと感想を述べていました。





編集後記

ミッキーマウスの生みの親ウォルト・ディズニーは、「宝島の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。何よりもすばらしいのは、これらの宝を毎日楽しめることだ。」と言っています。

今回の特集「町民の学びを育む図書館ネットワーク」を編集するにあたり、町内の小・中学校、こども園の読書に関わる活動取材しました。本の読み聞かせを聴く子どもたちは、身乗り出し、ワクワクドキドキしながらお話の世界に浸っていました。学校図書館に6年生が読み聞かせをしてくれた本や、3年生が国語の学習をしておすすめる本を展示しているコーナーの本がたくさんの子どもたちに借りられて少なくなっている様子を見ました。

学校図書館では、学校司書を中心に子どもたちの読書意欲を高めるように、イベントの企画や本の配置の工夫などいろいろな活動を行っています。これらの活動は、子どもたちが大人になっても本の中にある宝物を楽しめるようになってほしいと願って行われています。

全国学校図書館協議会が毎年行っている「学校読書調査」の結果では、2023年6月1か月間で1冊も本を読んでいるいない子どもの割合が小学生7.0%、中学生13.1%でしたが、まんのう町が同年に行った「子どもの読書活動に関するアンケート」では、小学5年生、中学2年生とも全国平均よりも2から3%少なくなっています。

では、大人はどうでしょうか。文化庁は、2024年1月から3月にかけて全国の16歳以上に調査した「国語に関する世論調査」の結果の中で、1か月に電子書籍を含む本を1冊も読まないと答えた人の割合は62.6%でした。過去最高となり、ほぼ3人に2人が本を読まない読書離れが進んでいることがわかりました。また、本を読んでいると答えた人を含めても読書量が「減っている」と答えた割合は69.1%にのぼり、こちらも過去最高でした。文化庁は、スマートフォンの利用が増えていることや、書店の減少で本を手にする機会が減ってきていることも影響し、読書離れが進んでいると推測されるとしています。

季節は秋。10月27日から11月9日は「読書週間」です。お気に入りの一冊を見つけて、読書の秋を過ごしてみたいかがでしょうか。

表紙絵：松下和佳奈（満濃中学校美術部1年）

次号予告
(12月1日発行)

特 集
園・学校ウォッチング

子どもたちの歯の健康を守る

長炭小学校・長炭こども園